

23年度 第一回 資質向上講習 231人が受講

一般社団法人 広島県配置医薬品連合会

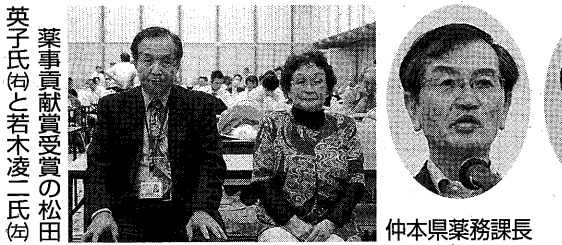
一般社団法人広島県配置医薬品連合会(小島恒治会長)の平成二十三年度第一回広島県資質向上薬事講習会は、六月九日午前九時から広島市中区加古町の広島市文化交流会館で開かれた。二百三十一人が出席し、熱心に受講した。



小島会長



門那良三副会長の司会ではじめられ、小島恒治会長が開会あいさつを述べた。講習に入り、テキスト第四章「関係法規・制度」に法改正による配置販売業の問題点についても触れ、新法への移行が進まない事に関して、配置販売業の実態に即した法改正が望まれると、具体的な問題点を指摘した。また、今後の展望として、五月十六日に薬業三団体から厚生労働大臣に提出された要望書等にも触れ、「配置三団体連名の要望書は大変意義のあるものである。今後への期待感と共に展開を注意深く見守る必要がある」と述べた。



23年度第一回資質向上講習会へ31人が受講

薬事貢献賞に 松田、若木両氏

ここで、薬事貢献賞の授賞式が午前十時からおこなわれた。来賓として顧問の



松田氏



若木氏



松田、若木両氏

登録販売者になって従事することの重要性を説いた。 榎山県議、緒方県議、仲本県業務課長、英子氏(向)と若木凌二氏(向)

大震災被災地救護班の経験も説明

午後九時一十分から開かれ、テキスト第三章「医薬品の作用」のうち、「薬の飲み合わせについて」と「災害時の医薬品について」で、特別講師として迎えた笠原講師が、被災地での経験から講義を受けた。

笠原講師は、被災地での経験に基づいて、注意が必要な飲み合わせ(子供・高齢者・妊婦への注意事項等)、食品や他の薬との併用等、薬の服用時の注意事項等について具体的に詳しく説明するとともに、医療現場での患者対応の難しさ等も紹介した。

また、東日本大震災被災地で、広島県医療救護班派遣員などの行事のたびに会費から募金を募り、平成六年から続けている。今回地域である広島県の皆様に対する感謝の気持ちを込めて、毎年七夕の日に車椅子を贈って下さる。どうか役に立てて下さい」とあいさつを述べた。

「パワポイントを使って講義。重要事項のポイントが的確に伝えられ、受講者は熱心に耳を傾けていた。講義後の午前十一時五十分からは、午前の部の確認テストが行われ、解答を終えた者から昼休憩に入った。

「この講習会は、広島県健康福祉局業務課・県薬剤師会・県立広島病院薬剤部等の協力を得て、資質向上対策委員会(委員長・小池一正薬剤師)がカリキュラムや講義内容・通信教育テキスト等を立案・管理して実施している。また、午後の二回実施した確認テストは、業務課と資質向上対策委員会が連携して共同製作したもので、マークシートを使用して委員会が採点、集計データは業務課に報告することで、出席確認がされる。会員受講率は九〇%を超えており、会員以外で研修を委託する業者も受講している。

当日は、通信教育テキスト「二十三年度会員証(携帯用受講修了書)・テキスト第三章攻略ハンドブック」を配布。通信教育(十四時間相当)は九月十五日を提出期限としている。

また、全国の組織問題について、将来的に連合会はどうなるのかの声を、広島県にも県業務当局との連携を求め、関係団体とも協力関係は良好であり、現状では、どの全国配置組織にも加盟する意味が有るとは思えないとの意見が多数を占めた。

18回目の車椅子寄贈

一般社団法人 広島県配置医薬品連合会



尾道市の支援施設に車椅子寄贈

一般社団法人広島県配置医薬品連合会(小島恒治会長)恒例の七夕車椅子贈呈式は、七月七日午前十時から尾道市栗原の障害者支援施設「社会福祉法人若菜・さくらの里」で開き、車椅子三台を寄贈した。

平成六年から毎年、会主催の研修会等で募金を募って実施しているもので、今年で十八回目。県業務課の幹事により、県内の障害者施設に車椅子を寄贈し続けている。

贈呈式では、小島恒治会長が、置き薬の紹介に続き「この車椅子は広島県内で置き薬を営む者が毎年、講習会などの行事のたびに会費から募金を募り、平成六年から続けている。今回地域である広島県の皆様に対する感謝の気持ちを込めて、毎年七夕の日に車椅子を贈って下さる。どうか役に立てて下さい」とあいさつを述べた。

続いて、県業務課の角田静香主任が、東日本大震災を例にして助け合いの大切さを伝えると共に、「毎年募金を募って車椅子を贈っている県配置連合会の気持ちを受け取って下さい」とあいさつ。

引き続き上間田政之施設長が「車椅子は障害者にとって体の一部。たいせつに使わせて頂きます」と謝辞を述べるとともに、感謝状を小島会長に手渡した。

その後、上間田施設長の案内で施設を見学。同施設では三十名の入所者が実施している焼き海苔の加工作業や清掃事業等の事業内容の説明を受けた。

午前十一時過ぎに施設長・職員の見送りをうけ参加者(会員・小島恒治、平野克重、小池一正、金田和宏、門那良三)は施設を後にした。

理事会で業界問題討議

研修会終了後は春学期理事会を午後六時半から同所で開催した。理事二十名が参加した。

金田和宏副会長の司会で始められ、小島会長が議長を務めた。

報告事項では、▽一月から六月までの会務▽東日本大震災義援金十万円拠出▽顧問会議への選挙協力▽新規従事者研修会▽会計中間報告一等の報告があった。

また、全国の組織問題について、将来的に連合会はどうなるのかの声を、広島県にも県業務当局との連携を求め、関係団体とも協力関係は良好であり、現状では、どの全国配置組織にも加盟する意味が有るとは思えないとの意見が多数を占めた。